

薬学実習 2

責任者・コーディネーター	創薬有機化学分野 河野 富一 教授 創剤学分野 佐塚 泰之 教授 分子細胞薬理学分野 弘瀬 雅教 教授		
担当講座・学科(分野)	構造生物薬学分野、創薬有機化学分野、天然物化学分野、衛生化学分野、分子細胞薬理学分野、創剤学分野、薬物代謝動態学分野、薬剤治療学分野		
対象学年	3	区分・時間数	実習 136.5 時間
期 間	通期		
単 位 数	6 単位		

・学習方針（講義概要等）

薬学実習 2 では、構造生物薬学、有機合成化学、天然物化学、衛生化学、分子細胞薬理学、創剤学、薬物代謝・薬物動態学に関連する各講義で得た専門的な知識と技能について、実習を通して体験学習しながら統合的に考察し、レポートを作成する能力を身につけることを目的とする。この実習は各担当分野教員の他、関連分野が分担協力して行い、広範囲な領域の知識・技能を体系的に学ぶ。

・教育成果（アウトカム）

構造生物薬学、有機合成化学、天然物化学、衛生化学、分子細胞薬理学、創剤学、薬物代謝・薬物動態学に関連する各講義で得た専門的な知識と技能について、実習を通して体験学習しながら統合的に考察することにより、物理化学、有機化学、天然物化学、衛生科学、薬理学、創剤学、薬物代謝学の実験手技の取得及びレポート作成能力が形成される。
(ディプロマ・ポリシー：7,8)

・講義日程

(矢) 西 103 1-C 講義室

クラス	月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
	4/15	水	3	創薬有機化学分野 神経科学分野	河野 富一 教授 駒野 宏人 教授	化学系実習に関する安全講習 1.化学系実習に係る法令、指針について概説できる。 2.化学系実習を安全かつ適切に行うことができる。 事前学習：2年時配当科目「薬学実習1」で受けた注意等を再確認しておく。 事後学習：配布された講義資料を再度熟読する。

	4/15	水	4	創薬有機化学分野 神経科学分野	河野 富一 教授 駒野 宏人 教授	<p>遺伝子組換え実験に関する安全講習</p> <p>1. 遺伝子組換え実験に係る法令、指針について概説できる。</p> <p>2. 遺伝子組換え実験を安全かつ適切に行うことができる。</p> <p>事前学習：2年時配当科目「薬学実習1」および、本年前期の「化学系」および「遺伝子組み換え」に関する安全講習の資料を再確認しておく。</p> <p>事後学習：配布された講義資料を再度熟読する。</p>
	9/14	月	3・4	薬剤治療学分野	三部 篤 教授	<p>動物実験安全講習</p> <p>1. 薬学実習において、動物実験を安全かつ適切に行うことができる。</p> <p>事前学習：2年時配当科目「薬学実習1」および、本年前期の「化学系」および「遺伝子組み換え」に関する安全講習の資料を再確認しておく。</p> <p>事後学習：配布された講義資料を再度熟読する。</p>
A	10/26	月	2～4	創剤学分野	佐塚 泰之 教授	<p>工場見学</p> <p>1. 薬学実習2において体験した内容が、製薬工場での医薬品製造工程において応用されていることを説明できる。</p> <p>【フィールドワーク】</p> <p>事前学習：見学先企業について事前に調べておく。</p> <p>事後学習：見学で学んだことや新たな気づきなどをまとめレポートを作成する。</p> <p>※実習内容に関連した企業を訪問・見学する予定であるが詳細は別途指示する。</p>
B	11/2	月	2～4	創剤学分野	佐塚 泰之 教授	<p>工場見学</p> <p>1. 薬学実習2において体験した内容が、製薬工場での医薬品製造工程において応用されていることを説明できる。</p> <p>【フィールドワーク】</p> <p>事前学習：見学先企業について事前に調べておく。</p> <p>事後学習：見学で学んだことや新たな気づきなどをまとめレポートを作成する。</p>

						※実習内容に関連した企業を訪問・見学する予定であるが詳細は別途指示する。
--	--	--	--	--	--	--------------------------------------

・成績評価方法

全日程の出席と各分野の担当する実習全てに合格することを原則とし、各実習の評価を総合して評価する。

・特記事項・その他

担当分野からの指示が記載されている場合は、それに従うこと。記載がない場合は、各実習時期に担当分野の指示に従うこと。授業に対する事前学修（予習・復習）の時間は最低 30 分を要する。